

式 辞

万物を育む水がゆるみ、草木が芽ぐみ、中庭の藤が咲き初めた今日の佳き日、岡山県議会議員 内山登様をはじめ、多くのご来賓並びに保護者の皆様方をお迎えして、かくも晴れやかに 平成三十年度岡山県立和気閑谷高等学校 入学式を挙行できますことに深く感謝を申し上げます。

ただ今入学を許可された一・二名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、九年間の義務教育を終え、高校入試の関門を突破して、ただ今をもって本校の生徒となりました。在校生と教職員の全員が皆さんの入学を心から歓迎いたします。

高等学校には、定められた単位を履修し修得してはじめて卒業が認められるという関門があります。また、公職選挙法の改正によって、十八歳以上が選挙権を有することになりました。皆さんは三年後、投票に行くことによって有権者としての責任を果たすという、立派な大人になる関門も自らの意志で開けなければなりません。

そのためには、高等学校の三年間で自分の人格や教養を大人の規格に合うようにバージョンアップさせていくことが求められます。こうして皆さんを見てみると、学習はもとより部活動やボランティア活動、地域貢献活動に精一杯取り組んで自らを成長させよう、そして自己の在り方生き方をしっかり考えようという気持ちでいることがひしひしと伝わってきます。大いに期待しています。

ご家族の皆様にお祝い申し上げます。お子様が自立に向けて大きな一歩を踏み出されました。ご家庭におかれましても、お子様が自分の考えを自分の言葉でしっかり伝えられるようにご支援いただき、自立を後押ししていただければ有り難く存じます。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、入学生の皆さん、高校生活のゴールである三年後の卒業の日に、自分がどんな人間でいたいかをイメージするなんて考えたことがあるでしょうか。ゴールの姿をまずイメージして、そこに到達するためにいつ・何をすればよいかをゴールから逆算して考える考え方を逆向き設計、バックワードデザイン、といいます。皆さん一人ひとりが、自分のなりたいゴールの姿をイメージして高校生活三年間を逆向きにデザインし、実現してゆけば、素晴らしい三年間になるものと期待しています。

その際に、本校が閑谷学校の歴史を今に受け継ぐ高等学校であることに思いを致してください。

閑谷学校は、身分制度が厳しかった江戸時代初期、武士の子弟だけが学ぶ藩校とは別に、庶民の入学を許可する学校として創建された、日本で最も古い学校です。学びたい意思をもった若者を分け隔てすることなく受け容れる学校として、今年で三四八年を迎えます。

その学びの精神を表した言葉の一つに「信・勤・儉」があります。

「信」は、信頼の信、自信の信です。人偏に言うとききます。言ったことは必ずやり遂げるという意味です。信頼は、他人に対して言ったことを必ずやり遂げることから生まれます。自信は、自分に対して言ったことを必ずやり遂げることから生まれます。

「勤」は、勤勉の勤です。真心をこめて一心に励むということです。

「儉」は、節約の儉。お金や時間を節約して質素につつましく生活をし、学びに集中することです。ステージに向かって右手の壁面には現在の校訓が掲げられていますが、信・勤・儉の精神を現代に受け継ぐ言葉になっています。

皆さん一人ひとりが、和気閑谷高等学校の歴史の継承者としての誇りをもって自らを鍛え、大きく成長して社会に羽ばたいて欲しいと願い、式辞といたします。

平成三十年四月十日

岡山県立和気閑谷高等学校長 香山 真一